

変わりゆく、まちの風景



リニア岐阜県駅周辺



ガイドウェイ製作・保管ヤード



中部総合車両基地



濃飛横断自動車道



写真提供：大塚 IT サービス

坂本まちづくり協議会だより 第17号

令和6年4月発行

駒場トンネル掘削工事開始



写真提供：JR 東海

駒場トンネル

現在、美乃坂本駅北側で整備中のリニア中央新幹線岐阜県駅工事ヤード内の坑口より掘削を開始し、木曽川に架かる玉蔵橋の下流部坑口までの約 4.7 kmのトンネル。

どんな未来に出会いたいですか？

リニア中央新幹線の完成は、日本の交通、経済、社会に多大な影響を与えることでしょう。街の風景が変わるだけでなく、交通の便が大幅に向上し、新幹線の駅周辺では、商業施設の開発、住宅の建設、観光の振興など、経済活動が活発化することが予想されます。

リニア中央新幹線は、単に移動手段を提供するだけでなく、社会のあり方や人々の生活を変える大きな力を持っています。私たちは、これらの変化を前向きに捉え、新しい未来を切り拓いていくことが求められるでしょう。

でも、変わらずにふるさと坂本の未来に残したいものがあります。それは、つながりの実感です。人と人のつながりの実感は、深い理解や共感、信頼を基盤とした人間関係から生まれます。このつながりは、単に一緒に時間を過ごすこと以上のものであり、相手を思いやる気持ち、共有された経験、そしてお互いの存在が互いにとって意味を持つという感覚に根ざしています。これからも坂本地区の豊かな自然環境を維持して、地域の歴史と文化を未来に伝えていきたいです。

ひととひとを
つなぎたい！



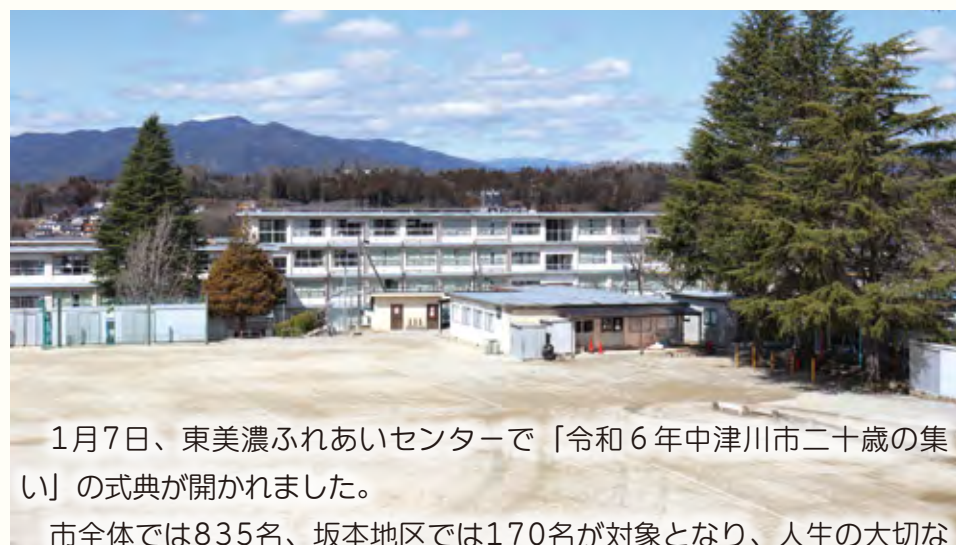
リニアの来るまち
坂本まちづくり協議会

〒509-9131 中津川市千旦林1197-10 TEL 68-2001 FAX 78-0002



スマホ用QRコード
(まち協ホームページ)

※この広報は中津川市リニア中央新幹線沿線地域対策交付金を活用しています。



1月7日、東美濃ふれあいセンターで「令和6年中津川市二十歳の集い」の式典が開かれました。

市全体では835名、坂本地区では170名が対象となり、人生の大切な節目をお祝いしました。

二十歳の集いは、市内各地区から選ばれた実行委員が組織する「二十歳の集い実行委員会」が企画運営をします。

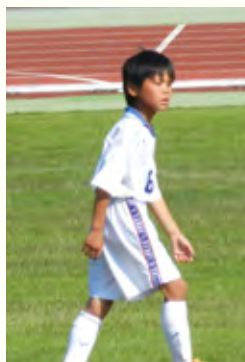
今年の二十歳の集い実行委員を務めた伊藤俊哉さん、遠藤快さんのおふたりにお話をうかがいました。

サッカーで築き上げた友情

—二十歳の集いのご盛会、おめでとうございます。伊藤さんは実行委員長、遠藤さんは実行委員として活躍されましたね。

伊藤：僕は、坂本中学校の教頭先生から連絡があり、実行委員を引き受けることにしました。もう1人実行委員が必要と聞き、小学生のころから一緒にサッカーをやっている、中学校の生徒会で僕が会長の時に副会長だった、親友の遠藤君に「一緒にやろう」と声を掛けました。

遠藤：僕も伊藤君も、小学生のころから坂本の北部グラウンドで練習をしているXEBECというチームでサッカーをしています。高校も一緒にサッカーで瑞浪



の中京高校に進学し、3年間同じクラスでした。大学は違うけれど、今は二人ともXEBECの社会人チームでサッカーを楽しんでいます。僕は、異年齢の人とサッカーをしたことがないので、とても新鮮です。試合中に「お前のやりたいようにやってみなよ」と言ってくれたり、お互いに意見を出し合ったりできる関係がとてもいいです。

伊藤：サッカーが好きな人たちばかりなので、年齢は関係なく和気あいあいとやることができます。サッカーはアイコンタクトを取りながらやるスポーツなので、アイコンタクトしてパスが通った時は本当に気持ちがいいですね。

中津川市二十歳の集い 坂本実行委員に聞く 坂本の今と未来



これからの坂本について

—今は選挙権が18歳からありますね。2度選挙がありましたが、行きましたか？

遠藤：学校で先生がいつも選挙の話をしていたので、とても大切なんだろうということは認識しています。でも忘れていました。次の選挙は行こうと思います。

伊藤：僕は興味や関心があるわけではないけれど、大切なものだからと思って、親と一緒に行きました。

—どのようにしたら、若い人が選挙に行くと思いますか？

伊藤：もっと話題性があると、若い世代も興味を持つと思います。そうすれば普段の話題に上って、選挙に行くと思います。

—リニアの工事がはじまって、景色が随分変わってきましたが…

遠藤：駅の北側の開発を見ると、自然がどんどん無くなって悲しい気持ちになります。小学校の頃は、工業高校の方に行く林の中をわざわざ歩いて帰っていました。夏は

涼しいし昆虫もいるし。最近木が減って、光が入って道が明るくなってしまいました。

伊藤：僕たちはいつも一緒に帰っていましたね。わざわざ遠回りしたり、森の中を探検してみたり。楽しい思い出がたくさんあります。正直、自然が減って寂しいように思います。僕たちが子供のころはド田舎で、田んぼと自然がいっぱいありました。

遠藤：リニアや濃飛道路の工事で坂本の景色が変わり、遠くから帰ってきて「帰ってきた～」という感じが無くなってしまいました。今後便利になって人口も増えると思うんですけど、自然豊かな坂本の景色に親しんできたので、少し寂しい気もします。

伊藤：これからはどんどん都会化していくと思います。自然を大切にしながらも、便利で暮らしやすいまちになって欲しいと思います。



人物紹介

伊藤俊哉さん（西林）
南山大学理工学部2年
＜将来の夢＞

まだ具体的には決まっていますが、大学で身につけた知識や経験を活かしていきたいと考えています。

遠藤 快さん（辻原）
中京大学法学部2年
＜将来の夢＞

国家公務員を目指しています。地域のために役立つ仕事をしたいと考えています。